

## 第五回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成26年2月18日（火）午前10時～12時
2. 場 所 南区役所 3階ホール
3. 出席委員  
高智穂委員、浦田委員、福田委員、荒牧委員、近藤委員、栄田委員、  
豊田委員、松岡委員、濱崎委員、植村委員、森委員、岡委員（副会長）、  
石原委員、吉村委員、田中委員（会長）
4. 配布資料  
資料1－「会議次第」  
資料2－「委員名簿」  
資料3－「平成25年度 南区まちづくり推進事業等実施状況」  
資料4－「南区まちづくりビジョンの実現に向けて」  
資料5－「平成26年度 南区まちづくり推進経費（案）」  
資料6－「南区内の主な行事、イベント等一覧」  
資料7－「平成26年度南区まちづくり懇話会開催予定」  
資料8－「南区だより vol.2」
5. 次第
  - (1) 開 会
  - (2) 挨 拶 南区長 永目 工嗣
  - (3) 平成25年度南区のまちづくり推進事業等について
  - (4) 平成26年度南区のまちづくり推進事業について
  - (5) 意見交換（テーマ：交流）
  - (6) 平成26年度南区まちづくり懇話会スケジュールについて
  - (7) その他（会 長より挨拶）
  - (8) 閉会

## 6. 議事録

会 長     まずは「平成25年度の南区まちづくり推進事業等について」に関して、事務局から説明をお願いします。

(事務局 「平成25年度の南区まちづくり推進事業等について」(資料1)説明)

会 長     今の事務局の説明について、質問などはないか。

A 委員    「区長と語ろう まちづくり座談会」について、これまでの内容はどのようなものだったか。

区 長     「南区だより vol.2」の最終ページに詳細を記載している。「ふれあいトーク富合」の回では、富合中学校の生徒と一緒に地区名入りの看板を木で作る取り組みの紹介とともに、南区のまちづくりのためには管内の団体同士の活発な交流が必要との意見をいただいた。「城南まちづくり倶楽部」の回では、幻灯彩の開催をイチョウの見頃の時期に合わせることが難しいという苦労話を聞いたり、季節ごとに主催されているイベントや催し物についてのお話をお伺いした。

A 委員    なぜこのような質問をしたかという、「城南まちづくり倶楽部」は一旦解散したが、県の地域振興事業の助成金があったために再度結成することができた。その助成は毎年あるわけではないので、こういった団体は財政的に厳しい。団体が継続していくために「南区がどのように支援していくのか」という観点からは是非検討してほしいと思ったからである。

B 委員    健康のまちづくりの資料を見ると、実施、設力が3校区、準備中が13校区、現在未着手が4校区ということで、保健子ども課から具体的に「何日までに報告書が欲しい。」というような働きかけがあれば、自治協議会としても取り組むところが増えるのではないかと思う。私も町民の一人としてまちづくりの協力を推進していきたいと考えている。

保健  
子ども  
課長     南区では、まず、自治協議会に私達が目指すのはこういう健康のまちづくりだということをお話ししている。その趣旨を理解していただき、具体的に進めていくことが決まっている校区が13校区ある。その中で、自治協議会から各団体に呼びかけてワークショップ等を開催していただき、区の職員が話し合いに参加して、健康に関しての具体的な案に取り組んでいただいているのが3校区ある。息の長い活動にしていくためにも、こちらから

積極的に期限を設けてのお話はしていない。会長さんと役員さんで十分に話をしながら進めていただいている。

会 長 保健子ども課としては今の現状に満足しているか。

保健子ども課長 3校区出来上がったのは成果だと思っている。また、取組中の13校区も予想より多い。各地域から活発にお話をいただいている。

会 長 B委員は自分の校区が遅れていて心配されているかもしれないが、先程の説明にもあったように、長い活動の中でゆっくりやっ行ってこうという姿勢なので、あせらず気長に取り組んでほしい。

保健子ども課長 平成27年度に中間評価はするが、その時点で半分くらいの校区が健康に関しての組織を作っていれば十分ではないかと考える。

C委員 私たちの校区でもこれから健康まちづくりに取り組む必要があるが、これは必ず健康まちづくり部会というのを立ち上げなければいけないのか。

保健子ども課長 川口校区が健康まちづくり部会をつくり、実行委員会形式で事業を進めたので、わかりやすい例として同じように進めることを考えていたが、それぞれの校区の実情に合ったやり方で構わないし、必ずしも部会をつくる必要はないと考える。

D委員 先に実現した校区から指導やアドバイスをもらったり、交流会を持つと、それぞれの校区に合うような健康づくりが実現できると考える。一から立ち上げて、すべてを区役所の説明通りにするのではなく、各校区に合った健康づくりがあると思うので、区役所には「こちらではこういう事をしているので見に来ませんか？」というような校区同士の間を取り持ってもらおうと良いと思う。

会 長 校区に合ったものにするために、お互いに話し合いの場をつくっていくと良いと思うので、次年度はぜひそのようなご検討をお願いしたい。

保健子ども課長 26年度のまちづくり広報の中で、各まちづくり交流室エリア単位で研修会を進めていく予定なので、その時に情報交換等をしていただき、他校区がどのくらい進んでいるのか、参考になるか、そういうところをお知らせし

ていきたいと思う。

会 長 それでは、次の議題に移る。次第4の「平成26年度南区まちづくり推進事業について」と5の「意見交換（テーマ：交流）」に関して、事務局より説明をお願いします。

（事務局 「平成26年度南区のまちづくり推進事業について」（資料2）および「意見交換（テーマ：交流）」（資料3）について説明）

会 長 昨年、南区のまちづくりの基本目標として、1. 農と漁業を誇れるまち、2. 歴史・文化を育むまち、3. 自然と共生した住みやすいまち、4. みんなが健康で元気なまち、5. 地域ぐるみで子どもを育てるまち、6. 安全・安心なまち、の6項目を設定した。今年度はこれらの実現に向けて、この懇話会を開催し議論してきた。昨年11月の第4回まちづくり懇話会で、平成26年度は、①「南区を知ろう」情報受発信事業、②まちづくりを担う人材育成、③テーマに応じた区のまちづくり事業、④地域（エリア）の特性を活かしたまちづくりの4本柱を掲げ、まちづくり事業を行っていくことが決定した。実際にまちづくりを行うとき、人材不足や後継者不足や若い人が協力してくれないとか様々な問題があり、ひとつひとつやっつけていこうとすると、辛く感じることもあると思うが、D委員からのアドバイスのように、協力して行うのが良いと思う。例えば、年配の方のイベントと子どもたちのイベントを一緒にすることで、相乗効果が生まれると思う。ここで改めて、副会長から懇話会の位置づけについて説明をお願いしたい。

副会長 熊本市が制定している自治基本条例というのがあり、制定から3年経ち、見直しが始まり、そのための委員会が開催されている。懇話会から私が代表として出席しており、他区の代表者の方、専門の方達で構成されている。この条例制定後、熊本市は大きく変わったと感じる。以前の「市の役割と住民の役割」という形に「区の役割」が入り、条文の見直しや構成の見直しを進めているところだ。その中で、この懇話会の役割をどのように位置づけたら良いかを話し合っている。最初に懇話会の設置要綱を配布しているが、この中で、懇話会は「まちづくりビジョンに基づく区の特性、魅力を活かしたまちづくりについて協議し、区長に報告するもの」と定義されている。この位置づけも大切になってくると思うので、今日、次年度のまちづくり推進事業について話し合う予定だが、本当にこれでいいのか、これを推進するにはどうしたらいいのかということを念頭において話して頂ければと思う。

会 長 この事業案を見ながら、「こうしたら上手くいくのではないか」とか「連携が大事だ」とか「情報が色々行き渡ることが大事だ」という話もあり、この懇話会は上手く機能していると感じている。しかし、行政だけですべてやるには限界があるので、私たちができることやアイデアなどを出してもらいたい。

D 委員 現在、川尻月間の最中でチラシをいろんな場所に配布してもらっている。ある施設からデイサービスの方を連れて行きたいとの要望があったが、会場から断られていたことがわかった。私たち実行委員会としては、障がい者の方も含めた優しいイベントを実行していきたいと考えている。来年度いろいろな事業を企画され、私もわくわくしながらこれを拝見したが、どこにも障がい者について触れていない。以前も申し上げたが、福祉のまちづくりの一つとして、障がい者の方々、高齢者で車椅子の方々のごとも考えていただきたい。そのような方々がイベントに来られるときも、周りの人がみんな優しい気持ちで受け入れられるようなイベントを最初から考えてもらいたい。

B 委員 人材育成について、No.8 まちづくり担い手育成事業で「広報誌の作り方」の講習会をするとあるが、広報誌を作る前の段階、どうやってまちづくりに参加する人を見つけるか、どうやってその人を育成するか、が必要だと思う。私は体協長兼事務局長で自分で広報誌も作るし、他の団体がいいものを作っていれば、そのアイデアをもらって自分で工夫してやっている。そうしたことから、広報誌作りの講習会は1~2回にして、残りの4回はどうやって人材を集めるか、育成するか、仲間作りはどうするかなどについて予算を回して、人材発掘、人材育成、仲間作りの講習会などをしてほしい。

会 長 仲間作りは必要だが、まず戦略としては、核になる人、B委員のような人をたくさんつくるのが大事なのではないか。そして、核となる人に広げていってもらおうというイメージかと思う。

まちづくり推進課長 広報誌の作成については、校区自治協議会の連絡会や自治会の研修会をする中で、アンケート調査等で広報誌の作り方を指導してほしいという意見があったので、事業として計画した。計画としては各自治会162あるので、各まち交単位6つのグループで開催したいと考えている。まちづくり担い手に関しては、自治会としても課題であり、催しをする時に積極的に参加される方を役員としてお願いするような形が良いか考える。

E 委員 人材育成はとても難しい。私の経験上、リーダーをするぐらいなら辞めるという人が多い。活動する時の核になる人を発掘することが人材育成につながると思う。経費の面でも、最初はいろいろ行動するにしても経費もあって動きやすいが、その後はやりくりが大変になり動きづらいので、人材がなかなか残らない。今のご時勢なのでボランティアとして無料でというのは難しい。先日、公民館で行われたまちづくり交流室の講座でも「PTAなどの代表をする人もいないし、参加する人もいない。」という意見があった。どこの団体も自治会も一緒だと思う。この先どうしたらいいのか、私も、「役員をお願いしたいのですが・・・」と探す段階になった時に、最近では60歳で定年されてゆっくり過ごされている方も少なく、お願いできる方がいない。いろいろな部分で区の使命というのが、人材面にしても金銭面にしても大事なところになっていくのかと思う。人材育成にしても、健康のまちづくりにしても、4つの構成が全部横につながっている。まちづくりにしても、子育て中のお父さんやお母さんみんなに関わって、その校区を将来的に担って行かなければ先々の校区自治協がなりたない。次の自治会長さんを選ぶにあたって、皆さん四苦八苦されている。校区に対する思いも育てていって欲しいと思う。

会 長 私も先生という仕事をしているが、私が楽しくない顔をしていると、学生も楽しくないように見える。私が楽しそうにやっていたら、「先生の周辺ってみんな楽しそうだなあ。」と言ってくれるので、この懇話会も楽しくないと、誰もこの懇話会をやりたくないという話になる。リーダーになりたいと思うような土壌を作らないと駄目だと思う。リーダー1人が大変で歯を食いしばってやる時代ではないので、「リーダーになった方が得じゃないの。」という感じのものを南区全体でつくっていかないと駄目だと思う。そういうリーダー養成プログラムが必要だと思う。どうせなら、情報を受け取る側ではなくて、発信する側になりたいと思えるような南区にしていければと思う。

D 委員 婦人会には楽しいから入ってくださる方もたくさんいらっしゃる。ある人に副会長をお願いしたら、「副会長になるくらいなら、会長がいい。」と言われた方もいる。予算面に関しても、予算がなければ、自分たちでつくってやれば良いと思う。予算をもらうことを当てにして計画をしたら、予算が切れた時に駄目になってしまうと思うので、何とかできるような方法を自分たちで探せるように仕向けていくのが行政の役割だと思う。

会 長 区長も人材発掘をされていると思うが、区長の意見としてはどうか。

- 区 長 地域やそれぞれの校区にどのような人材がいるのかというのは皆さん方が一番詳しいし、コミュニティ補助金の使い方の一つとして、そういう方々が集まって会合を開いたり、それを基にした新たな事業の立ち上げなどに使って頂きたい。また、区のコミュニティ補助金だけではなく、本庁では商店街を対象とした補助金や農業関係の補助金などが充実してるし、環境やいろいろな分野で事業補助というものもある。本市では、それをメニュー化して活動の手引ということで毎年作っている。それらも参考にさせて頂いた上で、可能な事業を組み立てて頂ければと思う。
- 会 長 何でも立ち上げる時が一番大変だと思う。ぜひ、南区でこのようなまちづくりの新しい使い方があったのだというものが、毎年1つか2つ出てきてほしいと思う。
- F 委員 人材というのは、すぐ育つものではない。実際に学問や仕事を通して若いうちからある程度の経験や自信を持った人たちが人材として出てくるものだ。ちなみに、地域の伝統を受け継いでいる祭りでは、普段は何もしない人たちが一生懸命それぞれに持てる力をたくさん発揮している。一般に、人材と言うが、このような子どもときから地域を愛する心を教育することで位置づけというものが生まれてくると思う。
- 会 長 人材といっても、いろいろな人材がいる。小さい頃から祭りとか郷土色のあるものは大事にするという教育をしていくことが大事である。
- A 委員 人というのは、すぐに育つわけではなく、時間もかかり、周りのサポートや環境作りも必要になる。南区の文化協会を立ち上げた時はできるところからやってみようという姿勢であった。私の狙いは人材育成や次代を担う子どもたちを育てること。人を集めることほど大変なことではない。祭りなどは一肌脱いで集まろうという人が多く、そういう若者が集える、集わなければならない場所を作ることが、私たちのまちづくり懇話会の力なのかなと思う。城南町でまちづくり推進会が立ち上がり、私も教育文化を担当した。その時に、町内の大学生、高校生、中学生まで私たちの会議に来てもらった。彼らはピアノや絵などいろいろな趣味、興味を持っているが、町全体としての取り組みというか連携というかそういう組織がない。次代を担う人材育成を考えると、環境をつくってあげることが非常に大切なことだと感じた。それから、今日のテーマの一つ“交流”だが、まちづくりは、人づくり。人づくりの基本は人と人との交流なので、そういった子どもたちが関わったり交流したりする場所が必要だ。幸山市長は新年の挨拶で、“繋ぐ”という言葉が使われた。素晴らしい言葉だと思う。人と人と

を繋いでこそ、私たち懇話会が目指す何かが少しでも見えてくるのではないか。人を育てるというのは、非常に時間もエネルギーもかかるものだが、そういう環境をつくらなければならない。その環境づくりは、私たち大人がいろいろ知恵をもっており、このような場があるので、上手く連携させながら取り組んでいかなければならないと思う。多少時間はかかるが、私たちがいろいろな場面でいろいろな知恵を出して行動していくこと、実施していくことが力になると思っている。

会 長 みんなが集まる場をつくるのが大事だと。南区“いきいき”フェスタについても、どこの区でも祭りやイベントをやっていると思うが、南区らしいお祭りにしていかないといけない。例えば、南区の得意なことは、農・漁業や歴史と文化、自然と共生した雁回山が見えて、美味しい野菜が食べられることなので、フェスタの中でも特に食育に力を入れるなど、フェスタをより充実させていくのが大事だと思う。また、人材育成は時間もかかるし、それぞれの世代でやっていかなければいけないので、確かにパワー不足かもしれないが、現実的な予算配分になっていると思う。限られた予算、機会を繋げていっていかに相乗効果を出していくことができるかが大事なことだと思う。

区 長 川尻は若者がまちづくりにものすごくエネルギーを投入して、次々に人材が出てきている地域だと思う。やはり、リーダーがいて、川をテーマにしたまちづくりをしたり、歴史をテーマにしたまちづくりをしたり、そういう現場で若い人たちが育っている。そして、青年協議会、商店街青年部などが一生懸命頑張っていて、その循環が上手くいっている。長期的な人材というのは、現場の中で育つと思うので、そういう事業を私たちも支援していきたい。先程の南区全体で若い人を育てるべきだというA委員からの意見については、南区役所としても区のまちづくりネットワークの活用を考えており、それに関連した支援が可能だと思う。

D 委員 川尻では12月の第1土曜日に川尻公会堂に役員180名くらいを集めて会合を行っている。幹事は町内が順番でしているが、幹事となる町内では必ず若い人たちが中心になって、PTAや婦人会に出て来られるので、この会が一番若者を盛り上げて継続させる場になっているのだと思う。そこでいろんな人材も発掘できるし、自分の町内に関わることなので、みんな一生懸命に取り組んでいる。

会 長 私も川尻が大好きだが、南区は川尻以外でもどの地域にも可能性がある。まずは、リーダーという核になる人をつくるのが大事だ。

G 委員 私も苦勞したことがあるが、人が集まって話をしようとしても場所がない。公民館を借りれば経費がかかる。まちづくりに関する会合を開く時にまちづくり経費から支援できれば、会合も開きやすくなるのではないか。

E 委員 校区の食生活改善推進委員さんのリーダーの会合をするが、そのための会場に支払うお金がないのが現状。そういう部分でのサポートはどうなのか。

会 長 少し違うかもしれないが、名古屋だとカフェや喫茶店がまちづくりの拠点になっている。必ずしも公共施設でなくても、例えば、天気の良い日は海辺や公園で話し合いの場を設けると、楽しい議論もできるのではないか。

H 委員 お金もなく何もなく人を集めることは非常に難しい。何かをすれば、どこかにお金がかかる。若い人が育つために、親御さんと子どもたちが一緒になって何かやりましようかと催し物と呼びかけても、「うちの子は、サッカーの試合がある。塾に行かないといけない。」など、子どもを連れて催し物に参加してもらえないような状態で、非常に寂しく感じている。

会 長 川尻がすごいのは、公会堂のようなみんなが集える場所があるということ。No.3 の交流拠点も、あそこに行けば誰かいるというような、使い勝手のいい情報の受発信が出来る拠点をつくるのが目的なので、南区内にもっとそういう場所ができるといいと思う。最後に副会長からお話をいただいてこの議事を閉めたいと思う。

副会長 来年度のまちづくり推進事業が全部で 19 あるが、この事業すべてが関連した事業だと思う。先ほど「一つの横のつながり」と E 委員が言われたが、事業が関連していくことによって相乗効果が出てくる。先程の説明で、来年度は「防災フェア」と「いきいき学びフェスタ」が同時開催になるかもしれないとのことだったが、想定していなかった相乗効果がでてくるかもしれない。健康のリーダー育成にしても、防災のリーダー育成にしても、まちづくり担い手育成にしてもスキルアップがメイン。基本的には、地域のマネジメントになると思うので、その辺で少し何か要素を重ね合わせながら関連させていくことによって、地域の負担が減れば、行政の方も個別ばらばらではなくて、南区というくくりでの事業として一貫性がでてくるのではないかと思う。

会 長 19 の事業を関連させて縦割りでやれることもあると思うが、それを繋いでいくことが大事だということ。それでは、議事の 6 に移る。来年度の懇話会の予定について事務局から説明をお願いします。

- 事務局 来年度の懇話会は全部で5回程予定している。第1回は区内視察、第2回は南区のまちづくりの評価・検証、第3回は平成27年度まちづくり推進事業方針を検討して頂き、第4回は平成27年度まちづくり推進事業（案）についてお話を頂きたいと考えている。年が明けた第5回は平成26年度まちづくり推進事業実施状況報告、平成27年度まちづくり推進事業予算説明を予定している。それ以外にも、随時、テーマに応じた、例えば今日の意見交換のようなものをお願いしたい。
- 会 長 来年度も引き続き皆さんの活発なご意見をいただきたい。次回は5月に開催を予定なので、次回もよろしく願います。